

農作物の生育状況と今後の見通し

農業振興戦略監とつり農業戦略課 研究・普及推進室 まとめ
令和2年5月14日 現在

作物名	生育状況等	今後の見通しと対策	
作物	<p>水稻</p> <ul style="list-style-type: none"> ・4月は低温で推移し、山間部の水稻育苗(ハウス平置き無加温)等で出芽不良やマット強度がやや不足する事例が見られた。5月は高温で経過しており、育苗は全般に順調である。 ・田植は4月下旬から開始されており、目立った障害は報告されていない。 ・用水不足は、現時点で報告されていない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・育苗や、田植前後の栽培管理について技術情報を通じて、主に関係機関に周知している。 	
	<p>麦</p> <ul style="list-style-type: none"> ・例年でない暖冬の影響で出穂期は平年に比べ2週間以上早かったが、4月が低温で経過し、平年に比べて9日程度早い生育となっている。 ・茎数は平年並には確保されているが、遅穂発生や施肥むら等による生育不揃いにより、収穫期の判断が困難になることが懸念される。 ・一部のほ場で部分的に倒伏がみられるが、その状態は軽微である。 ・暖冬の影響で、一部で網斑病の発生や、雑草の発生が多いほ場が見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・出穂期からの積算気温による収穫適期予想は、平年に比べて9日程度早まっており、11月上旬播種の二条大麦「しゅんれい」の収穫適期は5月下旬となる見込み。 ・適期収穫などについて栽培技術情報を通じて主に関係機関に周知している。 	
果樹	<p>ナシ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「二十世紀」の平均的な交配日は4月11日(平年:4月15日)で前年より5日早く、平年より4日早かったが、5月14日の作況調査では、平年並みよりやや遅い生育となっている(二十世紀:横径18.3mm 前年対比95%、平年対比91%)。 ・「二十世紀」では摘果～小袋かけ作業中。果実の形が悪く、小玉傾向。結実数は平年並み～やや少ない傾向。 ・「新甘泉」では黒星病の発生が確認され始めた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・良果を吟味しながら摘果し、品質と収量を確保する。 ・黒星病等の多発生に注意を行い、防除管理の徹底を行う。 ・ジョイント苗等の苗木には、灌水を実施する。 	
	<p>カキ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各品種とも展葉始めは平年より5～9日早い生育であったが、その後は遅れぎみに推移。 ・着蕾数は平年並み～やや多い。 ・目立った病害虫や霜害等の発生はない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「富有」「西条」の開花はじめは5月24日頃と予想(平年より1日遅い)。 ・摘蕾、摘花作業を計画的に実施する。 ・強風後は灰色カビ病対策の防除を行う。 ・例年カメシシの発生が見られ始める時期であるので注意を行う。 ・輝太郎の苗木には、灌水を実施する。 	
	<p>ブドウ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・デラウェアの後期ジベ処理、巨峰・ピオーネのジベ処理時期となっており、前年並～やや遅い生育となっている。 ・病害虫や気象災害等大きな問題は発生していない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・前年並～やや遅めの生育が予想される。 	
野菜	<p>すいか</p> <ul style="list-style-type: none"> 【ハウス栽培】 ・交配は4月9日から始まり、4月12日から本格交配となったものの4月12日～15日の交配は低温、降雨の影響で着果が悪く、蔓を引き戻すなどに対応したが、例年よりも着果が悪い。4月24日～27日の交配は着果はしているが変形果が多くなっている。 ・玉肥は昨年より小玉傾向。 【トンネル栽培】 ・5月1日から交配が始まり、5月7日頃から本格交配となったが、花飛びや雄花不良などで交配、着果に苦慮。 【病害虫】 ・例年と比べ、菌核病、アブラムシ、ハダニの発生は少ない。4月が低温であったため、菌核病の多発が懸念されたが、新規薬剤による防除対応で例年より抑えられたと見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・着果不良の場合は蔓を引き戻して次の花に着果させ、着果数を確保する。 ・降雨が少ないため、トンネル栽培も灌水を実施し果実肥大を促す。ハウス栽培の灌水は無理な早期切り上げは避け、収穫2週間前までは実施し、草勢維持に努める。 ・最低気温15℃を目安にハウス、トンネルは夜間開放し、呼吸消費を抑える。 ・気温が高まるため病害虫の発生に注意し、防除を徹底する。 ・4月上旬交配のハウス栽培は5月27日、28日頃には出荷の見込み。本格出荷は6月1日頃からの見込み。 	
	<p>白ねぎ</p> <ul style="list-style-type: none"> 【春ねぎ】 ・暖冬の影響で抽苔の多発懸念されていたが、4月は低温であったことから平年並みの発生で収まっている。 ・一本ねぎの出荷は終盤となり、坊主不知の出荷が始まっている。5月中旬から本格出荷。 ・さび病の発生がやや多く、5月に入りネギアザミウマ、ネギハモグリバエが発生している。 【夏ねぎ】 ・トンネル作型は冬季の過剰生育により抽苔が始まっているほ場が多く、多発生による収量減が懸念される。 ・露地作型は概ね順調に生育。 【秋冬ねぎ】 ・定植作業が進んでいる。生育は概ね順調。 	<ul style="list-style-type: none"> ・初夏ねぎは5月20日から出荷の見込み。 ・乾燥が続いているため、秋冬ねぎは定植後に灌水し活着を促す。 ・高温乾燥でネギアザミウマ、ネギハモグリバエの増加が懸念され、降雨がない場合は粒剤の効果が悪いため液剤も活用して初期防除の徹底を図る。 ・さび病、べと病の防除を徹底する。 ・梅雨入りまでに明渠設置などの排水対策を確実に実施する。 	
	<p>ブロッコリー</p> <ul style="list-style-type: none"> 【初夏どり】 ・5月どり(恵麟)の出荷が4月下旬から始まっているが、4月の低温の影響と見られる軽度なボトニング(早期出蕾)が3～4割程度あり秀率が50%程度と低い。 ・6月どり(SK9-099、サマードーム等)の定植は4月17日で終了したが、低温の影響で生育がやや遅れている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・5月以降は高温・乾燥が続いており、灌水を行い生育を促進する。 ・コナガ、アブラムシの防除を徹底する。 ・5月下旬以降収穫の作型は秀率が回復する見込み。 	
	<p>らっきょう</p> <ul style="list-style-type: none"> 【福部地区】 ・5月8日生育調査では、㎡球重:2.282g(平年比123%、前年比93%)、㎡球数:328個(平年比106%、年対比99%)で、昨年よりは少ないものの平年を大きく上回り豊作となる見込み。乾物率も昨年、平年よりも高く、熟期も早いと見られる。 【北栄地区】 ・5月8日生育調査では、らくだ系 ㎡球重:2.368g(平年比122%、前年比93%)、㎡球数:316個(平年比110%、前年比114%)、玉系 ㎡球重1.690g(平年比108%、前年比74%)、㎡球数:526個(平年比83%、前年比90%)で、昨年より少ないものの平年を大きく上回り豊作となる見込み。 	<ul style="list-style-type: none"> ・福部地区、北栄地区とも初出荷5月20日(初売日5月21日)の予定。 	
	<p>トマト(促成)</p> <ul style="list-style-type: none"> 【促成栽培(大原トマト)】 ・現在3～4段目収穫中。5月10日現在出荷量は7,079ケース(前年対比102%) ・灰色かび病、輪紋病の発生が一部ほ場で見られている。 【夏秋どり(日南トマト)】 ・5月15日から定植開始。 	<ul style="list-style-type: none"> ・収穫は6月下旬まで続くため、病害虫防除を徹底し、草勢維持に努める。 	
	<p>アスパラガス</p> <ul style="list-style-type: none"> ・昨年秋の枯れ上がり全体的に早かったため、立茎開始を早め5月上旬から立茎している。春芽収量は例年より少ない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ハウス栽培露地栽培とも、立茎中は茎枯病、ジュウシホシクビナガハムシの防除を徹底する。 ・乾燥が続く場合は灌水し萌芽を促す。 	
	<p>にんじん(春どり)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・不織布の被覆除去は例年並の4月末頃。5月1日生育調査で本葉5～7枚程度、根長は20cm前後。 ・3月温暖と4月低温で早まき(3月初旬)は生育が良いが遅まきではやや生育が遅れている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・出荷は例年通り6月10日～末までの予定。 	
	花き	<p>シンテツポウユリ</p> <ul style="list-style-type: none"> 【東部地区】 【八頭町】 ・季咲き作型(盆出荷)は4月下旬を中心に5月初めにかけて定植が行われた(例年と同時期)。 ・種子の状態が非常に悪く、例年に比べて生育が劣り、出葉数も少ない。メーカー育苗の苗および智頭の生産者の委託苗はいずれも5月8日時点で本葉3～4枚程度と例年に比べ2枚程度少ない。 【鳥取市】 ・季咲き作型は4月下旬を中心に定植された。育苗時の発芽不良・生育不揃いにより購入苗中心の定植となった。 ・苗の活着は概ね順調で現在本葉4～5枚程度。 【中部地区】 【倉吉市】 ・季咲き作型の地床育苗のものは5月8日頃から順次定植中。本葉5枚程度。 ・ハウス抑制作型(秋冬出荷作型)は現在育苗中で、本葉が見え始めたところ。 【北栄町】 ・季咲き作型は、3戸が4月上旬～下旬にかけてチェーンポット苗を定植した。概ね順調に生育。うち1戸はハウス抑制ユリの切り下球(収穫後残る球根)を利用して定植し、出葉が始まったところ。 ・露地抑制作型(彼岸出し)の1戸は育苗中。 ・ハウス抑制作型は8戸(うち倉吉1戸)+苗受託者が育苗中。補植は、早い生産者(3月下旬種子冷蔵出庫)は4月25日頃から、遅い生産者(4月中旬種子冷蔵出庫)は5月10日頃から開始している。発芽状況は生産者によってばらつきが見られるが、概ね良好。中国産種子と千葉産種子では、千葉産種子の方が子葉の展開が良く、その後の生育も良好。 	<ul style="list-style-type: none"> ・苗の仕上がりが劣り、例年より生育が遅いことから、ボリューム不足や輪数の減少が懸念される。 ・晴天が続いているため灌水管理に注意し、活着確認までは10mm/回程度の灌水を実施する。 ・葉枯れ病の防除を徹底するとともに、ユリクビナガハムシの発生に注意し、適宜防除する。
		<p>リンドウ</p> <ul style="list-style-type: none"> 【東部地区】 【智頭町】 ・4月の低夜温の影響や4月下旬～5月上旬の高温少雨の影響により、やや生育が停滞ぎみとなっていたが、例年よりやや生育は早い。 ・草丈は極早生系統で60cm程度になっており、発蕾が見られる。しなの2号なども草丈30cm～40cm程度に生育している。 ・5月上旬にはスリップスやカメムシの発生が見られた。 【中部地区】 【三朝町】 ・2年生株、3年生株ともほぼ順調に生育しており、揃った萌芽がみられる。株あたり約10本の芽条となるよう摘芯作業を行っている。現在の草丈は40～60cm。また、一部の欠株跡へ新しい苗の補植を行った。 ・標高の低いところでは既に出荷が認められ、生育は進んでいる状況。 	<ul style="list-style-type: none"> ・病害虫防除を徹底する。病害防除は定期的な予防散布を基本とする。 ・晴天続きのため灌水を実施する。
		<p>トルコギキョウ</p> <ul style="list-style-type: none"> 【東部地区】 【八頭町】 ・盆前出荷用に4月下旬から5月上旬にかけて定植した(例年と同時期)。 【中部地区】 【北栄町】 ・2戸が日南町の花壇苗生産者に育苗を委託中。 【西部地区】 【日南町】 ・花壇苗生産者1戸がトルコギキョウの育苗を受託。4月18日と5月2日に播種し、4月18日播種分については発芽揃いの状態となっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・活着までは十分に灌水する。 ・発芽率等の調査を実施する予定。
畜産	<p>飼料用トウモロコシ</p> <ul style="list-style-type: none"> 【東部地区】 4月下旬に播種開始、順調に進んでいる。早いところでは5月4日に発芽を確認。 【東伯地区】 冬作にイタリアンライグラスの作付けをしていないほ場では、概ね播種は終了。 【大山地区】 5月上旬に播種開始。 	<ul style="list-style-type: none"> 【東部地区】 播種は6月まで続く見込み。 【大山】 播種は6月まで続く見込み。 【日野】 日南町では5月下旬に播種予定。 	
	<p>イタリアンライグラス</p> <ul style="list-style-type: none"> ○イタリアンライグラス 【東部地区】 管内の一番草収穫作業は現在も進められている。 【東伯地区】 1番草の収穫は概ね終了。収量は昨年よりやや多い。 【大山】 4月中旬に収穫開始。天候良好で、順調に進んでいる。 【西部地区】 標高が低い地域では1番草の収穫終了。中山間地域においても生育は早い傾向。 【日野】 4月下旬に収穫開始。生育は例年に比べやや早い。 ○他牧草 【東部地区】 湖山池周辺の牧草生産組合(瀬、三津、西桂見)の牧草の1番草は5月1～13日に収穫。 	<ul style="list-style-type: none"> ○イタリアンライグラス 【東伯地区】 1番草の収穫は近日中に終了見込み。 【西部】 平年と比べ、収穫は早まる見込み。 【日野】 収穫は6月初め頃までには終了見込み。 ○他牧草 【東部地区】 湖山池周辺牧草2番草の収穫は7月頃の予定。 	
その他	<p>農作業安全</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和2年5月14日広島地方気象台発表の中国地方1か月予報によると、暖かい空気に覆われて1週目(5月16日から22日)の気温は高く、また向こう1か月を平均した気温も高いと予想されている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・春は身体が暑さに慣れていないため、農作業中の熱中症に注意する。 ・体調が悪い時には、農作業を行わないようにする。 ・特に農業用ハウス内での作業には注意が必要。 ・天気予報や熱中症警報などの情報をもとに作業を計画する。 ・正午前後の気温の高い時間帯を避け、作業を行う。 ・農作業中はこまめに休憩をとり、水分を十分補給する。また、水分と合わせて塩分の補給も行う。 ・農作業の前後も水分の補給をする。 	